



IIPS

平和研講演会シリーズ 2006
2006 IIPS Lecture Series
“国際的な信頼醸成と我が国の役割”

前米国上院外交委員会東アジアチーフ政策アドバイザー
フランク・ジャヌーヅィ氏
「第2次アーミテージ報告書を読む」
2007年3月20日 於:日本財団 会議場

2007年3月30日、(財)世界平和研究所主催により、フランク・S・ジャヌーヅィ氏(米国外交評議会日立インターナショナルアフェアーズ研究員、世界平和研究所客員研究員)による、「第2次アーミテージ報告書を読む」と題する講演が、日本財団会議場(東京)で行われた。ジャヌーヅィ氏は、同報告書の執筆者の一人であり、報告書に関する分析と解説を講演で行った。

講演の冒頭でジャヌーヅィ氏は、“The U.S.-Japan Alliance: Getting Asia Right Through 2020”と題する今回の報告書は、2000年の「第一次レポート」の第二弾として作成されたものであり、前回のレポートに内容を付加したもので、全く新しいものではないという紹介を行った。2007年「第2次アーミテージレポート」は、地政学的、経済学的見地から広範な内容を扱ったものであり、中国・インドのグローバル・パワーとしての台頭に注目し、日米の利益にかなったグローバル・システムに混乱を与えることなく、中国の台頭に適応する弾力的な国際枠組みを形成するために、日米同盟がどのような役割を果たすことができるのかについて焦点を当てたものである、とジャヌーヅィ氏は指摘した。さらに同氏は、同レポートの特徴を以下のように概略した。



今回の最新の報告書で、アーミテージ、ジョセフ・ナイ両氏は、アジアの将来像について、大国間の対立関係の構図になる可能性、希少資源の確保を巡る確執、新たな安全保障上の脅威、民主主義的価値の拡大や良好な統治(グッド・ガバナンス)の進展に関する不透明性が同地域にはあると見ている。また、9.11テロ事件後の米国における不拡散やテロに対する関心の高まりを反映して、新しい安全保障上の脅威(非伝統的脅威)の出現に関するいくつかの議論を行っている。また、同報告書は、経済、

安全保障、テロ、に関する諸問題、環境問題、エネルギー安全保障についてある程度詳述している。このように、エネルギー問題、インフルエンザ・パンデミック、環境問題に触れているものの、同報告書は現実主義者の論評に根ざした議論をしており、日本と米国が如何にして大国間の勢力構成の変化に伴う不確実性に上手に対処するかに力点が置かれている。

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。



東アジアの地政学的なバランスが変化する中、新しい地域構造が具体化しつつあり、中国はその構造の一部を必ず担うことになる、と報告書は指摘している。東アジアの統合の速度は急速なものではないが、東アジアのコミュニティを構築しようという方向性は実際に確かなものになりつつある。それは、次々と自由貿易協定が調印されているだけでなく、ASEAN 憲章の起草や東アジア首脳会議の創設に向けた進展が見られることでも明らかである。報告書は、民主主義、法の支配、経済・安全保障・人権分野での国際規範の順守といったものを明確に保証するような東アジアのコミュニティの発展を促ながすことは、日米両国の共通の利益であると論じている。



今回の2007年「アーミテージレポート」は、中国が大国として台頭しつつある点、それが日米同盟の将来に及ぼす影響について多大な注意を払っている。また、インドにおける急速な経済発展にも注目し、「中国の台頭に匹敵する」と指摘している。東南アジアに関して、同地域の大きな人口規模（約6億人）および拡大する経済規模（8千億ドル）に触れ、同地域の大きな可能性が現実のものになるように、日米両国が協力を強化することが必要であると指摘して

いる。

最後にジャヌージ氏は、報告書は米国に対して厳しい論評をしており、イラク戦争やグローバルな対テロ戦争に気をとられている結果、きわめて重大な国益や喫緊の安全保障上の懸案事項を犠牲にしていると指摘している、と述べた上で、参加者との質疑応答を行い講演を締めくくった。